12ミリ厚3×6判を1200円に値上げ

原木不足深刻化、針葉樹フロア台板も

国産針葉樹合板

国産針葉樹合板の品不足は深刻さを増している。プレカット会社など直需向けを中心におう盛な需要が続くなか、メーカー在庫は払底している。国内合板メーカーはフル生産体制を継続しているが、合板用国産材丸太を集めるのが極めて難しく、思うように増産できない。このため、納期遅れが広がっており、プレカット会社でも合板不足が一段と強まっている。こうしたなか、各合板メーカーでは原木高などを背景に12ミリ厚3×6判の建値を10月から1200円(1次問屋着、枚)に引き上げる方針を打ち出している。

12ミリ厚品の値上げに合わせて24ミリ厚3×6判が2400円(1次問屋着、枚)、28ミリ厚3×6判が2800円(同)に引き上げられる。さらに、針葉樹非構造用合板では針葉樹フロア台板が1050円(フロアメーカー着、枚)と前月比50~70円高となる。

国内合板メーカーの集材環境は一段と悪化している。西日本では杉、桧丸太の集材に苦しんでおり、丸太価格も高止まりしている。西日本のメーカーのなかには米松丸太など輸入材比率を高める動きも出ているが、高値で手当てせざるを得ない状況に変わりはない。東日本でも杉、カラ松丸太で集成材、製材メーカーとの競合が一段と激しさを増しており、森林組合などとの協定販売で手当てしている分以上の数量を素材生産者などから手当てするのが極めて難しくなっている。さらに、フロア台板の表裏面単板に使われる道産トド松も集成材や製材メーカーなどとの競合が激しくなっており、フロア台板の生産コストも上昇。桧、トド松と針葉樹フロア台板の表裏面に使われる原材料が値上がりしたことで、これまで大きな値上げを行ってこなかった針葉樹フロア台板を東西双方とも値上げせざるを得ない状況となった。

メーカーからの供給が思うように伸びないなか、ひっ迫感は強まっている。8月も出荷量が生産量を上回り、針葉樹構造用合板の在庫量は7万3100立方㍍(前月比600立方㍍減)。プレカット会社など直需向けでは一部合板メーカーが定量注文分もすべてを受注するのが難しく、数量を減らされるプレカット会社も出ている。その他のメーカーでも1~2カ月の納期遅れが常態化しており、プレカット会社では加工日程に合わせた合板の手当てに追われている。木建ルートでも「建材の引き合いは一服してきたが、針葉樹合板は手に入るなら欲しいという声が強い」(大手問屋)状態。ホームセンターも現物玉確保を優先するなかで、木建ルートと同様の価格を受け入れざるを得なくなっている。

現在、12ミリ厚3×6判の市中価格は1130~1150円(関東1次問屋着、枚、10㌧車メーカー直送)。不足感が強まるなか、今回の値上げも素早く浸透すると見られる。

一方、針葉樹フロア台板を使う建材メーカーは当初、値上げに難色を示していた。しかし、輸入ファルカタ台板が原木高に伴う値上がりに加えて、コンテナ不足により納期遅れが深刻化。その他の台板や基材も現状以上の供給増が見込めないなか、安定供給を維持するために値上げを受け入れた。